

【ESD実践】

奈良市立飛鳥小学校 野外活動 支援報告書

英語教育専修 学部1回生 下原舞

1. 実施日 平成29年9月26日(火)
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター(奈良市阪原町25-1)
3. 参加者 教職大学院 大学院1回生 谷内裕也
英語教育専修 学部4回生 谷垣徹
英語教育専修 学部1回生 下原舞
理科教育専修 学部1回生 井奥康樹、山本愛菜
奈良市立飛鳥小学校 第5学年児童69名(男子36名・女子33名)
奈良市立飛鳥小学校 引率教員7名

4. 活動支援内容

平成29年9月26日(火)、奈良市青少年野外活動センターにおいて、奈良市立飛鳥小学校第5学年の野外活動が行われ、本学ユネスコクラブの学生と奈良ユネスコ協会青年部の学生がその支援に当たった。柳生オリエンテーリング、ピザづくり、野外炊飯、キャンプファイヤーなどの活動に関わった。本報告書では、二つの視点から今回の野外活動支援を振り返りたいと思う。一つ目は時間を守らせることの難しさ、二つ目は情報共有の大切さである。



入所式で話を聞く子どもたち

一つ目の時間を守らせることの難しさについてであるが、これは一日の支援の中で何度も強く感じたことである。時間が押してタイムテーブル通りに進まなかった時、先生方が随時時間の変更や次の集合時間を子どもたちに知らせ、5分前行動を厳守するよう伝えていらっしやった。しかし、子どもたちは楽しさの余り時間を忘れて、集合時間に遅れてしまったりしていた。時間の管理は出来るだけ子どもたち自身でしてほしいので、私たち学生は「時間だから行きなさい」など直接的な指示を出すのではなく「時間は大丈夫？」といった具合で、子どもたちに時間を守ることをうまく促すことが必要なのではないかと思った。

二つ目の情報共有の大切さについてである。これは柳生オリエンテーリングの際、先生方は『第1ポイント〇〇班通過しました』などの細かな報告や変更事項をやり取りしていらっしやったのを見て感じたことである。これはオリエンテーリング中だけではなく、野外活動全体を通して、場所の移動をはじめ、体調の変化などどんなに小さなことでも、一人の教員あるいは学生が知っているだけでは不十分なため、気付いたことや変更したことは教員全員に共有すべきだと感じた。

以上が今回の野外活動支援で学んだことである。今後もこのような支援を通して、奈良市立飛鳥小学校と継続して関わっていききたい。